



前号の DOKUGAKU、印象に強く残ったのが TICA さんのコメントでした。「必需品は買いたくない。(中略) 買わなくちゃいけないものを買うときは嫌な気持ちがある。買わなくてもすむ『欲しいもの』を買うときはわくわくする。」

「人生は冷蔵庫か？ファッションか？」という質問に対する答えで、何とも真実をついていると思いました。

必需品は買いたくない。まさにその通り。やらなきゃいけないことはしたくない、やらなくてもいいどうでもいいことがしたい。何故だろう。

歩く、って行為もやらなきゃいけないときは、嫌だ。学校へ行ったり会社へ行ったり、どうしても行かなきゃいけない所へ行くときは、自転車や自動車で行くのに、散歩などのように、別にどうしても行かなきゃいけないわけじゃないような時には歩く。どうせなら、どうしても行かなきゃいけない時に歩けばいいんだよね。時には家の中で前へ進まないようにしてベルトコンベアの上を歩く人がいる。人間は無駄な事が好きなんだ。

人間は食べなきゃ生きていけない。野菜でも肉でも魚でもいいのだけど、どうしても人間に必要なものを作っている人はあまり報われない。農業も畜産業も漁業もあまり報われないから若い人でなりたがる人がいない。半導体や自動車なんて人間が生きる上で別にあってもなくてもどうでもいいようなものを作る人の方が、必需品を作る人より概ね報酬的には恵まれている。どうしてだろう。農家はどうして反乱を起こさないのか。

半導体や自動車を作る人、と言ったけど、本当はそれを作る人より、それを作らせている人の方がもっと恵まれている。工場で汗を流して生産ラインにつく人より、販売戦略を練ったり、資金を調達したりする人の方が多分恵まれている。工場で物を作らなきゃ会社は成り立たないんじゃないの？販売戦略も大事かも知れないけど、物そのものがなきゃどうしようもないわけでしょう？どうしても必要なものを作る工場より、まああった方がいいけどなくてもいいものの集まりである本社事務所の方がはるかに立派な建物なのは どうしてだろう。

最近若者の草食化が進んでいるらしい。彼等は仕事は適当にやっておいて、余暇でやりたいことをしたいのだそうだ。やりたいことを仕事にしたいの难道うか？テレビの特集

番組に出ていた若者はエレキギターの演奏がやりたいことだった。ならばロックミュージシャンになれば、嫌な仕事をする必要がなくなるのに。これも多分、エレキギターの演奏が必需品じゃないから好きなんだろうなあ。もしそれが必需品になったらとたんに嫌いになったりして・・・

こういう若者にかぎってイヤリングをしたり、鼻にピアスをあけたり、僕から見ると妙な装飾品を身につけている。仕事は適当にやって、生活できる最低限のお金が得られればいい、と口で言う。最低限の生活とイヤリングや妙な装飾品がどうしても僕の頭で結びつかない。イヤリングをつける事はご飯を食べることより大事な事なのか。

かく言う僕は子供の頃から仕事が嫌いだった。大人達が「仕事がない、仕事が欲しい」と言うのが不思議で仕方なかった。仕事なんて辛い事をどうして欲しがらるのだろう。僕は大人達が嘘をついていると思った。彼等は仕事が欲しいのではなくて、お金が欲しいのだ、と。仕事の代わりにお金を上げる、と言われたら、それでも大人達は「いや、お金より仕事を下さい」と言うのだろうか。

僕も草食系の若者のように、生活できる最低限のお金があったら、自分の好きなことをやって生きていたいと思った。最低限の生活とは「飢えない、凍えない、子供に迷惑をかけない」だと思った。イヤリングは勿論要らない。服だって、寒さが凌げればそれでいい。くさい臭いがするのは周りに迷惑だから、清潔である必要はあるが、最新ファッションなんて最低限の概念からは程遠い。必需品は最低限あればいい。必需品がたくさんある必要はない。たくさん欲しいのはどうでもいいもの、自分の好きなもの。

自分の好きなものって何か。これが意外と難問なんだよね。僕は旅行だったり、お酒だったり、友人と飲み明かすことだったり、かな。人生って自分が何を好きかを探す事かも知れない。

必需品はたくさんある必要はない。必需品は足りないときは滅茶苦茶重要だが、必要なだけあると、それ以上は滅茶苦茶価値が下がる。砂漠で渴いたときの水は命に代えても欲しいのに、町の水道水は勝手に飲んでも誰も文句を言わない。

必需品は可哀相だ。あれだけ一生懸命役立っているのに、役割以上のことをしようとすると皆から嫌われる。必需品に愛を。ガンジーは必需品を愛した。皆がガンジーのようになれば、きっと地球は救われる。